

No.3028

中央アジアを介したアフガニスタン支援のあり方についての国際会議  
—エネルギー貧困問題解決による社会の安定化の可能性について—

秋田大学大学院国際資源学研究科 講師  
稲垣文昭

本企画は、アフガニスタン安定化の方策をアフガニスタンからのテロリズム・過激主義の直接の影響を受ける中央アジアを通して探ることを目的としている。具体的には、アフガニスタンの経済復興に不可欠な電力供給に着目し、中央アジアのタジキスタンとキルギスからアフガニスタンへの電力供給プロジェクトである「CASA1000」を取り上げた。アフガニスタンと主たる電力供給国であるタジキスタンから専門家を招聘し、2019年12月16日と12月18日に2回の会議を開催した。

12月16日に（一財）日本エネルギー経済研究所大会議室にて開催した会議は、会場となった日本エネルギー経済研究所と研究代表者が所属する秋田大学国際資源学部／国際資源学研究科の協定調印記念シンポジウムも兼ねる会議となった。なお、会議開催直前となる中村哲・ペシャワールの会代表の悲劇もあり、アフガニスタン情勢への関心高まりもあり一般参加者を含め30余名の参加があった。海外からのゲストに加えてそれぞれの組織から専門家が登壇した同会議では、(1)エネルギーが争いの原因ではなく争いを止める道具となっていること、(2)アフガニスタンは混乱の発生源ではなくアフガニスタンを混乱させる要因が外部から侵入した結果であること、(3)アフガニスタンを安定化は、周辺諸国だけの課題ではなく国際社会が取り組むべき課題であることが再確認された。なお、二日後の12月18日（水）には秋田大学にて本会議での議論を踏まえた特別講演を開催し、秋田大学のアフガニスタンからの留学生を含めアフガニスタン支援のあり方について活発に議論され、紛争当事国とその周辺諸国、そして国際社会の連携の必要性が再確認された。